
金沢大学附属特別支援学校 みんな★いけんぷらす

(結果)

調査概要

対象	実施期間	調査方法	回答数(回答率)
児童生徒	①令和8年5～6月 (全学部)	①質問紙の配布もしくは Webアンケート ※聞き取り・代筆を含む	①47/59(79.7%)
保護者	①令和8年5～6月	①Webアンケート	①42/59(71.2%)
地域・進路先等	①令和8年6月～ ※回答受付中	①Webアンケート	

I 児童生徒アンケート

I 児童生徒アンケートより

○ 調査目的

- ・児童生徒が、教育活動に対して自分の意見を表明し、決定プロセスに主体的に参画する機会とする。
- ・児童生徒の意見を教育活動に反映し、教育活動・指導の改善を図る。

○ 調査期間

令和8年5～6月

○ 調査対象・方法

本校児童生徒を対象に質問紙もしくはWebアンケート用二次元コードを配布した。

○ 形式

自由記述

○ 回答方法

質問紙もしくはWebアンケートに回答を記入した。なお、児童生徒によっては聞き取りのうえ教員が代筆した。

○ 集計方法

単純集計

○ 研究協力に対する倫理的配慮

配布の際に口頭で本アンケート調査の趣旨を説明するとともに、①調査へのご協力及び回答は自由意思によるものであること、②調査結果については厳重に管理し、関係者以外が閲覧したり、持ち出したりすることのないこと、③調査結果は匿名化したうえで集計し、個人名等が特定されたりするような公表は行わないこと、④研究結果は、個人が特定されないよう処理したうえで公表することを説明した。

アンケートの質問項目

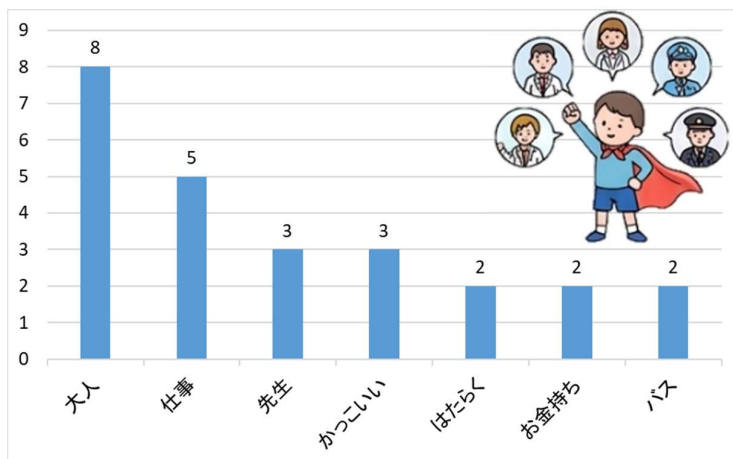
質問	回答（□は選択式、空欄は自由記述）
Q0 氏名	
Q1 将来・大きくなったら、どんな自分になりたいですか？	
Q2 将来・大きくなったら、どんなことができるようになりたいですか？	
Q3 どんな社会をつくりたいですか？	
Q4 将来のためにどんな力をつけたいですか？	
Q5 これまでにワクワクした授業・行事はありますか？	
Q6 これまでにがっかりした授業・行事はありますか？	
Q7 自分の力をつけていくためには、どんな授業がよいと思いますか？	
Q8 先生からどんなときに、どんなことを言われるとやる気が出ますか？	

【参考】こども若者★いけんぶらす テーマ「みなさんが願う人生や社会にするために、学校でどんな学びが大切ですか？」

アンケートの回答状況と集計結果の示し方

- 回答数： 47/59 (79.7%)
- 結果
 - ・回答を単語で区切り、表記のゆれを一部統合して出現頻度を集計した。そのうえで、出現頻度が高いものをグラフで示した。
- 留意点
 - ・単語の集計頻度については、回答者の意図・文脈等を考慮せず、機械的に集計を行った。
 - ・一部のグラフは出現頻度の低いものを省略した。
 - ・設問ごとの考察では出現頻度が低い単語を含めている。
 - ・小学部児童に無回答が多いことから、中・高等部生徒の意見が反映しやすい傾向がある。

将来になりたい自分・大人像



※出現数1以下のものは省略した。

※「人」「になりたい」「将来」は省略し、「人」の修飾語にあたる言葉を集計した。

児童生徒が描く将来像は、具体的な職業目標から精神的な成熟、そして社会貢献まで多岐にわたる。

【具体的職業】

・「YouTuber」「保育園・放課後等デイサービスの先生」「農業家」「バス運転手」「消防士」「警察関係」「ドーナツ屋」「デザイナー」

👉 多様な職種への関心が示されている。

【理想の人間像】

・「人を大切にできるカッコいい人」「困っている人に自分から声をかけられる頼もしい人」「元気で明るい大人」

👉 人格的な成長を望む声が多い。

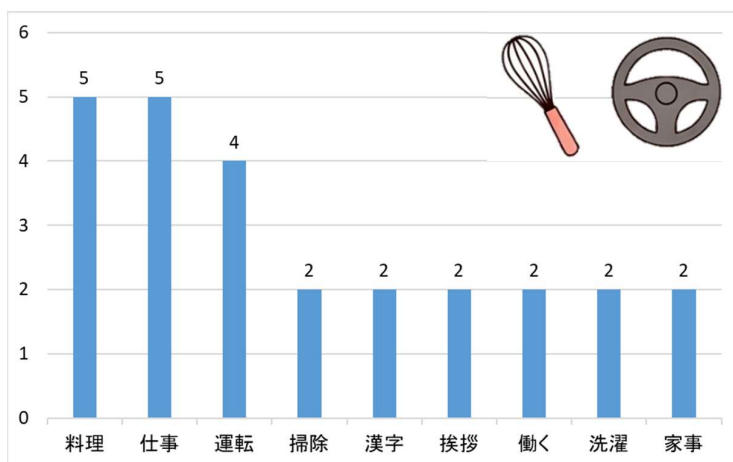
【自立への意識】

・「一人暮らしをしたい」「自分でお金を管理したい」「身だしなみをきちんとしたい」

👉 身辺自立を明確に目標とする傾向が高等部を中心に顕著である。

「大人」「仕事（働く）」といった社会参加面への意識が最も高く、「かわいい」「優しい」といった内面的な理想も見られる。

将来できるようにになりたいこと



※出現数1以下のものは省略した。

将来のために必要だと感じている能力は、実生活に直結するスキルから精神的な素養まで幅広い。

【生活技術】

・「料理」「洗濯」「掃除」「家の鍵を閉める」などの家事全般。

【コミュニケーションと社会性】

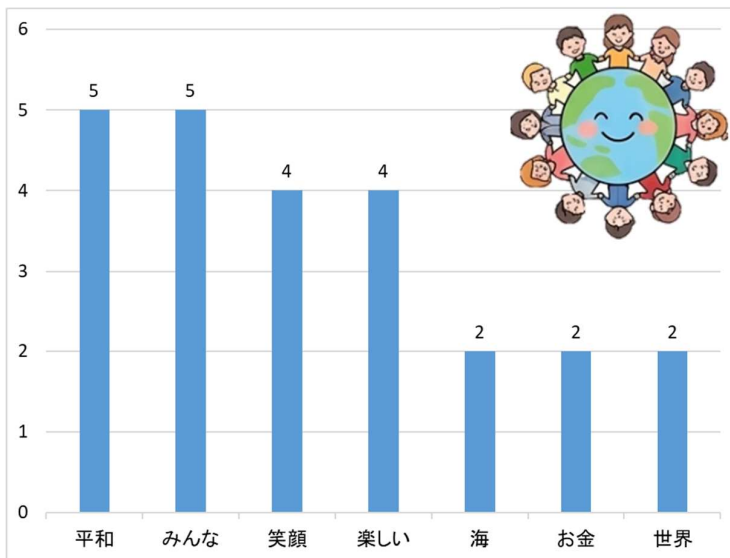
・「挨拶」「人前で堂々と話す力」「外国語学習」「困っている時に『助けてください』と伝える力。

【専門・技術的スキル】

・「パソコンカ (ICT)」「カメラの使い方」「車の運転」「ピアノ」「判断力」「持続力」「正確性」

実生活での自立を象徴する「料理」が最多で、続いて「運転」や「仕事」が続き、具体的な生活スキルの向上を求めている。

つくりたい社会の姿



※出現数1以下のものは省略した。

※「社会」は省略し、社会を表す修飾語を集計した。

児童生徒が望む社会の姿には、以下の共通テーマが見られる。

【平和と幸福】

- ・「世界中の人が違法な行為をせずに幸せになれる社会」
- ・「みんなが笑顔でワクワクした平和な社会」

【環境保護】

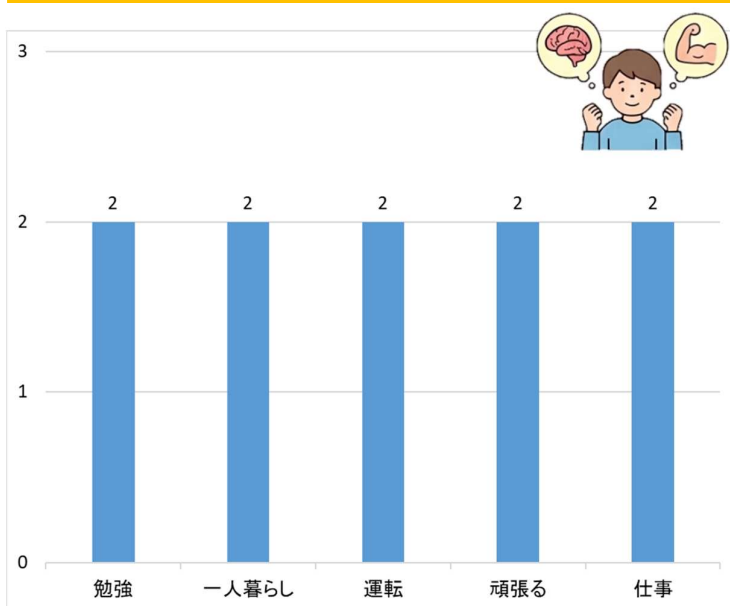
- ・「海を綺麗にする社会」「海にゴミがない時代」
- 👉 具体的な環境改善への意欲が見られることから、中学部・総合の探究課題による効果と考えられる。

【相互扶助と経済的安定】

- ・「笑顔で皆で助け合える会社」「無駄遣いのない社会」
- ・「お金をたくさんもらえる楽しい社会」

「平和」「みんな」という言葉が最も多く、次いで「笑顔」「楽しい」など精神的な豊かさを求める声が目立つ。

将来のために付けたい力



※出現数1以下のものは省略した。

【自立に向けた力】

- ・「勉強」「判断力」「持続力」「正確性」「注意力」「体力」「言葉(言葉遣い)」

【自立した生活への関心】

- ・「一人暮らし」「運転」「掃除」「畑作業」

【学習への意欲】

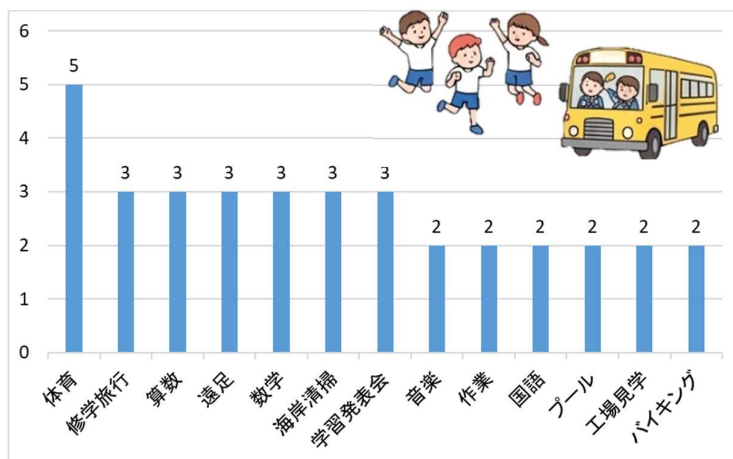
- ・「勉強」「パソコン」「韓国語」「国際理解」「絵本(を楽しむ)」

【コミュニケーションへの関心】

- ・「笑顔」「人前で話す」「困ったことを伝える」

回答は多岐にわたるが「自立した生活を送るための力」「働くために必要な力」「人と関わるための力」を身に付けたいと考える回答が多く見られた。

心が動いた授業・行事(ワクワク)



※出現数1以下のものは省略した。

【身体性を伴う体験型の学習】

・体育、修学旅行、海岸清掃、工場見学

【行事】

・修学旅行、遠足、学習発表会、クリスマス会、国際交流活動

【教科学習】

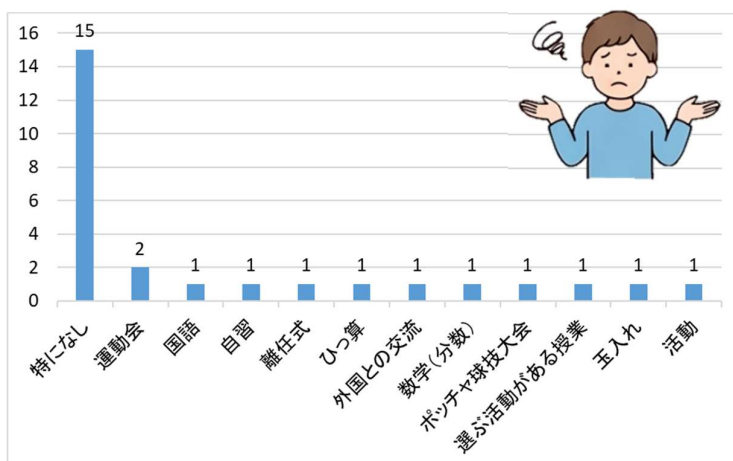
・算数・数学、国語、音楽

【社会・地域における学習】

・海岸清掃、工場見学、研究発表会、買い物学習

身体性を伴う体験型の活動や、社会・地域の中で行う学習にワクワクする児童生徒が多い。特に、体育・修学旅行・遠足・清掃活動が本校の特色ある学習活動となっている。

心が動いた授業・行事(がっかり)



【圧倒的に多い「特になし」「無回答」】

👉 多くの児童生徒は特定の授業や行事に対して否定的な印象をもっていない。

👉 アンケートにおいて「がっかりした」「嫌だ」といった気持ちを表現できていない可能性があることに留意する必要がある。

【理由が記されていた回答】

・「何語を言っているかわからなかった」(国際交流)

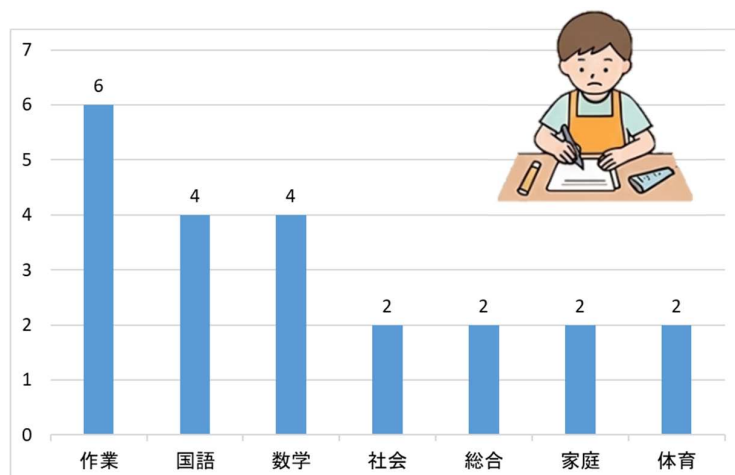
・「分数が難しかった」(数学)

・「球技大会で負けた」(球技大会)

👉 否定的な印象は「内容が難しい」「勝敗」から生じている。

授業に対するがっかり感は、「特になし」「空欄」が過半数を占めている。これより多くの児童生徒は授業・行事に対して大きな苦手意識をもっていないが、学習内容が難しいと考えられるものや活動による勝敗(成否)が明確になるものについては配慮を要する。

自分を高める授業



※出現数1以下のものは省略した。

【作業学習】

- ・「作業で体力をつけたい」
- ・「作業で得意・苦手を知りたい」
- ・「作業をするために力をつけたい」
- 👉 将来の仕事や職業生活につながる作業学習を重視している。(高等部生徒の回答数が多いことに留意)

【基礎的な教科としての国語・算数・数学】

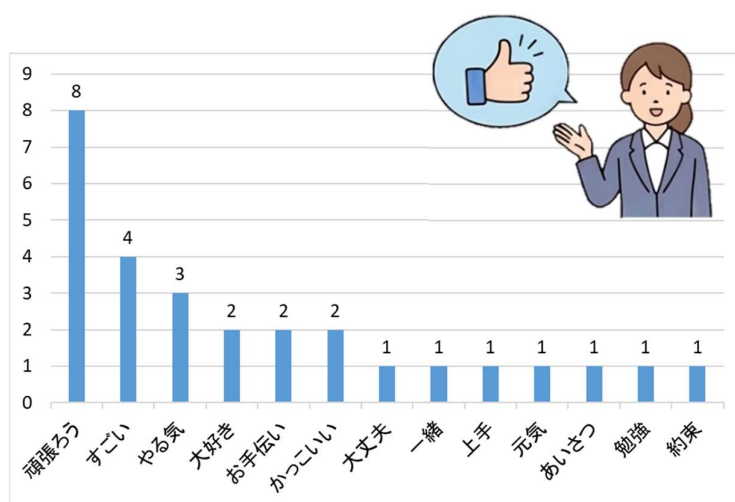
- 👉 基礎的な学力を将来に役立つものとして捉えている。
- 👉 時間割上にある教科としての印象が強い。

【コミュニケーションへの関心】

- 👉 「しゃべる」「お話」「発表」などが含まれており、人と関わる力を伸ばしたいという意識がうかがえる。

将来の生活につながるイメージがある「作業学習」や、基礎的な教科としてのイメージがある「国語」「算数・数学」を役立つ学びとして捉えている回答が多く見られた。

やる気を引き出す言葉



	回答(一部抜粋)
信頼・期待	・「〇〇ならイケる!」 ・「あなたならできるよ」 ・「大丈夫」
伴走・共感	・「一緒に頑張ろう」 ・「いつでも相談してね」 ・悩みを聞いてもらってスッキリした
賞賛・肯定	・「すごいじゃん!」 ・「上手だね」 ・「かっこいい」「グッド!」
役割の付与	・「お手伝いをお願い」 ・「これをやって(頼られること)」

「頑張れ」「すごい」といったストレート・シンプルな励まし・承認が、児童生徒の回答に多く見られたことから、身近な大人からの肯定的な声掛けが大きな力になっている。

まとめ

本アンケートの分析を通じて、児童生徒は「社会の中で役割を持ち、自立して生きていくこと」に強い関心を抱いていることが確認された。特に高等部においては、将来の職業生活や社会自立につながる作業学習や、具体的な（生徒がイメージしやすい）生活スキルに係る学習が関心・意欲を高める鍵となっている。

今後の教育活動においては、以下の点を踏まえた教育課程を編成していくことが重要となる。

【体験活動の重視】

教室内の座学に留まらず、地域社会や実生活に結びついた体験型学習を継続的に実施する。

【肯定的フィードバック】

教師が伴走者として、結果だけでなく、過程や意欲を肯定する具体的な言葉かけを行う。

【生活スキルとの関連付け】

金銭管理、家事、移動手段（運転・公共交通機関利用）など、生活年齢・発達段階に応じて生活スキルと関連付けた学習内容を設定する。

以上の要素を統合することで、児童生徒が自らの将来に希望を持ち、主体的に学ぶ姿勢を育むことが可能になると示唆される。これらは自己決定理論（基本的心理欲求理論）に示されている生得的な心理的欲求（①コンピテンスへの欲求、②自律性への欲求、③関係性への欲求）を充足・促進することと重なるものであり、単元を構想する際に考慮するポイントになる。

2 保護者アンケート

Ⅰ 保護者アンケートより

- 調査目的
 - ・保護者が、教育活動に対して保護者としての意見を表明し、決定プロセスに主体的に参画する機会とする。
 - ・保護者の意見を教育活動に反映し、教育活動・指導の改善を図る。
- 調査期間
 - 令和8年5～6月
- 調査対象・方法
 - 本校保護者を対象にWebアンケート用二次元コードを配布した。
- 形式
 - 自由記述
- 回答方法
 - Webアンケートに回答を記入した。
- 集計方法
 - 単純集計
- 研究協力に対する倫理的配慮
 - 配布の際に口頭で本アンケート調査の趣旨を説明するとともに、①調査へのご協力及び回答は自由意思によるものであること、②調査結果については厳重に管理し、関係者以外が閲覧したり、持ち出したりすることのないこと、③調査結果は匿名化したうえで集計し、個人名等が特定されたりするような公表は行わないこと、④研究結果は、個人が特定されないよう処理したうえで公表することを説明した。

アンケートの質問項目

質問	回答（□は選択式、空欄は自由記述）
Q0 氏名	
Q1 将来（大きくなったら）、どんなお子さん（大人）になってほしいですか？	
Q2 将来（大きくなったら）、どんなことができるようになってほしいですか？	
Q3 お子さんにはどんな社会をつくって／生きてほしいですか？	
Q4 お子さんが思い描く未来の社会をつくるために、どんな力をつけてほしいですか？	
Q5 お子さんがこれまでにワクワクした授業・行事はありますか？	
Q6 お子さんがこれまでにがっかりした授業・行事はありますか？	
Q7 お子さんの力をつけていくためには、どんな授業がよいと思いますか？	
Q8 お子さんは、先生からどんなときに、どんなことを言われるとやる気が出ると思いますか？	

【参考】子ども若者★いけんぶらす テーマ「みなさんが願う人生や社会にするために、学校でどんな学びが大切ですか？」

アンケートの回答状況と集計結果の示し方

○ 回答数： 42/59 (71.2%)

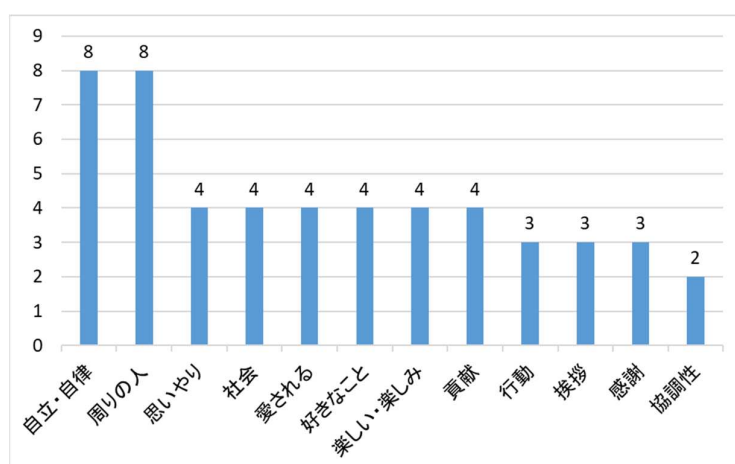
○ 結果

・回答を単語で区切り、表記のゆれを一部統合して出現頻度を集計した。そのうえで、出現頻度が高いものをグラフで示した。

○ 留意点

- ・単語の集計頻度については、回答者の意図・文脈等を考慮せず、機械的に集計を行った。
- ・一部のグラフは出現頻度の低いものを省略した。
- ・設問ごとの考察では出現頻度が低い単語を含めている。

子どもに願う大人像



※出現数1以下のものは省略した。

※「自分」「人」「大人」は省略し、それぞれの修飾語にあたる言葉を集計した。

【自立】

・「自立」「自分で考える」「自分で決める」「自分のことを自分でする」

👉 辞書的な「自立」ではなく、「支援を受けながらも主体的に生きること」を望んでいる。

【思いやり・人との関わり】

・「思いやり」「挨拶」「感謝」「協調性」「コミュニケーション」「愛される人」「温かく見守られる人」

👉 自分も他者も大切にできる人になってほしいという願いが表れている。

【社会とのつながり】

・「社会に貢献」「社会の一員」「好き・得意を活かす」

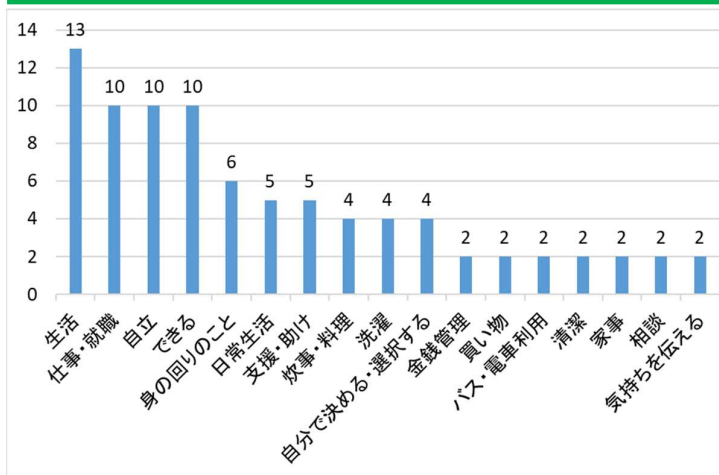
👉 その子らしく社会とつながってほしいという願いが表れている。

【幸せに生きること(=最終目標)】

👉 「何ができるか」よりも「本人が幸せに生活できるか」を重視している。

保護者が描く児童生徒の将来像は人間関係に関する価値が、学力や職業以上に重視されている。特に、誰もが自分なりの「自立」を目指すことが重要であると考えており、自他を大切に思い・必要とし、互いに支え合うことを望んでいる。

将来できるようになってほしいこと



※出現数1以下のものは省略した。

【生活の自立】

- ・「自立」「生活・日常生活」「身の回りのこと」
- ・〈家事スキル〉「炊事・料理」「洗濯」「掃除」
- ・〈援助要請〉「助けてもらう」「支援を受ける」「相談する」
- 👉 生活面での自立を強く願っている。ただし、一人ですべてでることではなく、必要な時に適切な支援を求められることを「自立」の一部として捉えている。

【仕事・社会参加】

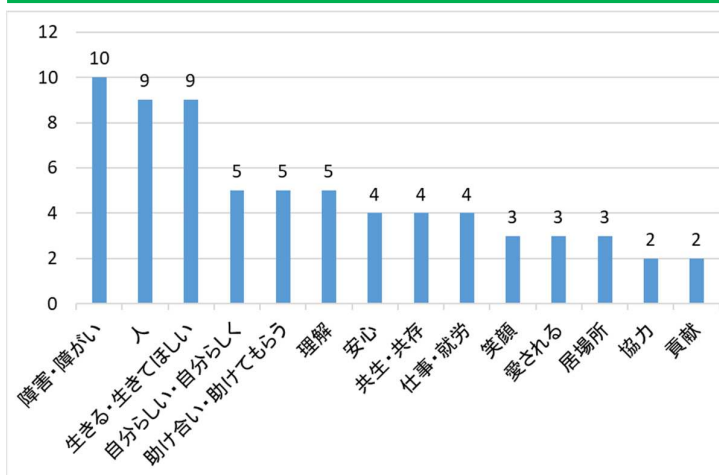
- ・「仕事」「就職」
- 👉 働くことはもとより、自己選択・決定を通して自分の得意なことを生かされることを期待している。

【自己選択・自己決定】

- ・「自分で決める」「選択する」「計画する」「意思・気持ちを伝える」
- 👉 自分自身の生き方・在り方を自分で選び、決めることを重視している。

実生活での自立を象徴する「料理」が最多で、続いて「運転」や「仕事」が続き、具体的な生活スキルの向上を求めている。

つくってほしい／生きてほしい社会の姿



※出現数1以下のものは省略した。

※「社会」は省略し、「社会」の修飾語にあたる言葉を集計した。

【障害の有無にかかわらない社会】

- ・「障害があっても困らない社会」「障害の有無にかかわらない社会」「障害を受け入れてもらえる社会」「理解のある社会」「共生・共存」「協力」「助け合い」「愛される」「笑顔」
- 👉 「特別な社会」や「支援する・される関係の社会」ではなく、周囲の人と支え合いながら障害があっても地域の一員として当たり前で暮らせる社会の実現を期待している。
- 「インクルーシブ・多様性の包摂」につながる視点

【安心】

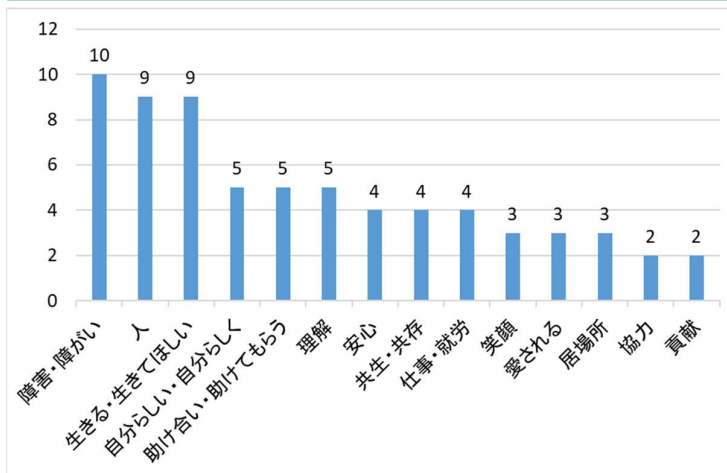
- ・「安心」「居場所」「生きやすい」
- 👉 いわゆる「社会的な成功」よりも、安心して暮らせることを重視している。
- 「ウェルビーイング」につながる視点

【自分らしく】

- ・「自分らしく」「好きなこと」「得意なこと」「やりたいこと」「挑戦」
- 👉 その子らしく精一杯生きること期待している。

障害の有無にかかわらず、その子らしく精一杯生き、地域社会の中で安心して暮らせることが、保護者の願いとして強く表れている。

将来のために付けてほしい力



※出現数1以下のものは省略した。
※「力」は省略し、「力」の修飾語にあたる言葉を集計した。

【コミュニケーション力】

・「思いを伝える力」「気持ちを伝える力」「意思を伝える力」「社交性」「思いやり」

👉 適切性・正確性よりも、まずは「自分の気持ちや考えを相手に伝える力」を重視している。そのうえで周囲と良好な関係を築きながら社会で生活する力を大切に捉えている。

【援助要請】

・「助けてと言える」「困った時に声を掛ける」「周囲に頼る」

👉 必要な時に適切な支援を求められる力を将来のために必要な力として捉えている。

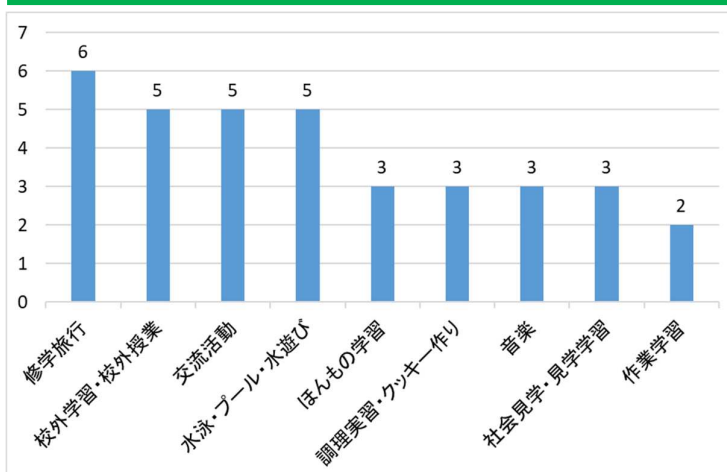
【自己理解と自己決定】

・「長所を活かす」「得意・不得意を知る」「やりたいことを見つける」「自分で考える」「選ぶ」

👉 自分を理解し、自分らしく生きていくための力を身に付けてほしいという願いが見られる。

自分を理解し、自分の考えや気持ちを伝え、必要な時には助けを求めながら社会の一員として生きていくための力を身に付けてほしいという願いが強く表れている。他の設問と共通して「自立」「コミュニケーション」「自己決定」「周囲とのつながり」「支援を求める力」が重要なキーワードとして繰り返し表れている。

子どもの心が動いたと思われる授業・行事(ワクワク)



※出現数1以下のものは省略した。

【「ほんもの」にふれる学び】

・「修学旅行・合宿」「校外学習」「社会見学」「外部講師授業」

👉 教室・学校を離れて実際の社会や地域の中で行う学習活動が強く印象に残っている。とりわけ、地域・企業・大学などにつながる本物の体験が学習への意欲・興味につながっている。

【人との交流】

・「附属高校生・大学生・外国の方との交流」

👉 普段の生活では関りの少ない人との出会いにワクワクしている様子が見られる。

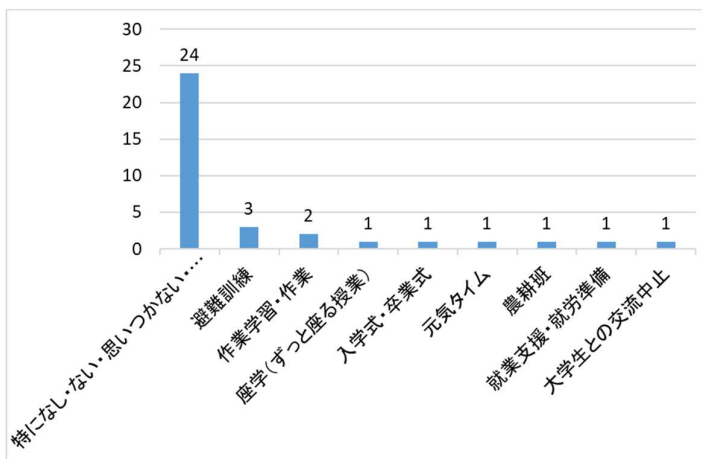
【体験型学習】

・「調理実習」「作業学習」「実験」「新メニューの開発」

👉 「見て学ぶ」よりも「やって学ぶ」活動に楽しさを見出している。

「交流(多様な方との出会い)」×「地域の中での学習」×「本物の体験」が、子どもたちのワクワクを引き出す要因になっていると保護者は考えている。

子どもの心が動いたと思われる授業・行事（がっかり）



※出現数1以下のものは省略した。

【圧倒的に多い「特になし」「無回答」】

👉 多くの保護者は特定の授業や行事に対して否定的な印象をもっていない。

【怖さ・負担感】

・「避難訓練」

👉 大きな音（非常ベル）や過去の恐怖経験（緊急地震速報）と結びつくことで、恐怖感をもっている児童生徒がいることに配慮が求められる。

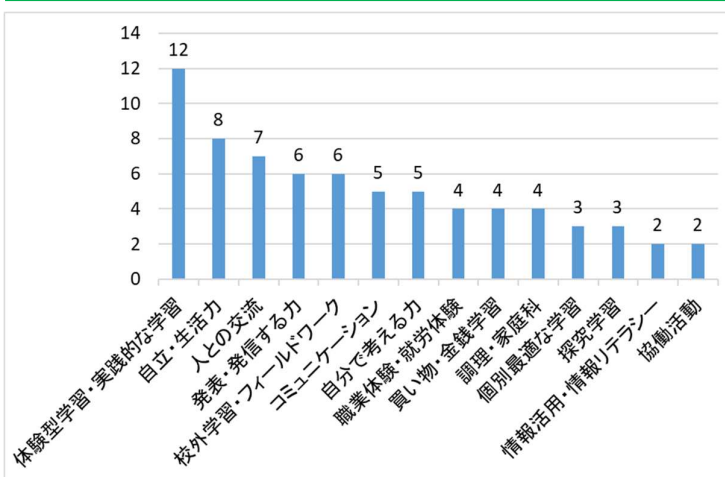
【長時間の活動】

・「ずっと座る授業」「入学式や卒業式」「作業学習」

👉 長時間の活動・集中状態は身体的な負担につながる一因になりうる。

お子さんが特定の授業や行事に対して強い不満や苦手意識をもっているとは感じていない。一方、少数の意見として避難訓練や長時間の座学・式典、単調な作業活動が挙げられており、感覚面での負担や活動の長さへの配慮が必要な場合がある。

子どもを高める授業



※出現数1以下のものは省略した。

【体験を通した学び】

・「実際にやってみる」「体験する」「現場に行く」「社会と関わる」

👉 実生活に結びついた学習への期待が大きい。

【人との交流】

・「他校との交流」「地域との交流」「大学生との交流」「外部講師との交流」

👉 多様な人との関わりの中で社会性を育ててほしいと考えている。

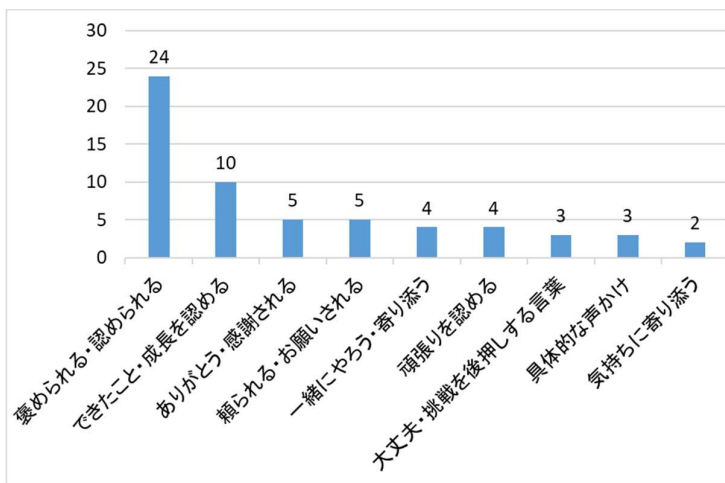
【探究・主体性】

・「発表する」「提案する」「自分から発信する」「自分の考えをまとめる」「情報を整理する」「好きなものを調べる」

👉 自分でテーマを決めて調べる学習や地域課題を考える学習への期待が見られる。

本物に触れる学習・身体性を伴う学習を通して、自立と社会参加につながる力を育てる学習活動への期待が高い。

子どものやる気を引き出す教師の言葉



※出現数1以下のものは省略した。

【賞賛の言葉】

・「前よりもできたね」「頑張ったね」

👉 結果だけではなく、頑張った過程を認めることを期待している。

【成長を実感できる言葉】

・「前よりできた」「成長した」

👉 他人との比較ではなく、一人ひとりの成長を認めてもらうことを期待している。

【役割の付与+感謝の言葉】

・「ありがとう」「助かった」「頼んでよかった」「お願い」「頼られる」「任される」

👉 誰かの役に立てたという実感がやる気・活動の原動力につながる。

【挑戦を支える言葉】

・「一緒にやってみよう」「大丈夫」「少しだけやってみよう」

👉 不安を取り除きながら背中を押してもらえ、活動を伴走することを期待している。

児童生徒一人ひとりを認め、挑戦を後押しする関わりを期待している。

まとめ

保護者は、将来わが子が自立した生活を送り、周囲と協力しながら自分らしく社会貢献できる大人になることを願っている。

授業内容については、生活の充実につながるスキル習得はもとより、外部の人々との多様な交流を通じた体験型学習を求める声が多く見られる。また、子どもたちの意欲を高めるためには、日々の小さな努力を認め、具体的な言葉で肯定し褒めることが重要であると示された。

全体を通して、障害の有無にかかわらず、個性が尊重される共生社会の実現と、それに向けた実効性のある教育活動への期待が記されている。

今後の教育活動においては、以下の点を踏まえた教育課程を編成していくことが重要となる。

【ワクワクを起点とした「本物」の体験】

生徒が主体的に学ぶための動機付け（ワクワク感）と、実社会との接点を重視した「本物感（Authentic Learning）」を授業デザインの軸に据える。とりわけ、保護者から高く評価されている活動を分析すると、教育活動充実の要因は「本物の役割」「多様な他者」である。これを強化するために、①ボーダーレスな活動の拡充、②持続可能な外部（プロフェッショナル・地域）連携、③探究心の刺激（マイ・テーマの尊重）が鍵となる。

以上の要素を踏まえることで、保護者の期待に応える教育課程の編成・実施が可能になる。